



# 仲村ひであき 県議会ニュース

vol.8 2021年冬【発行】千葉県議会議員 仲村秀明

## 仲村ひであきが令和3年9月定例会の質問に立ちました。

(公明党千葉県議会議員団)

9月定例会では補正予算を含む30議案が可決されました。

(主な施策)

- コロナ対策として、軽症者等のための宿泊施設を常時1,500室程度確保するとともに、看護師の確保や酸素吸入器の更なる配置を行います。また、自宅療養者への対応強化のため、新たに自宅療養者フォローアップセンターを設置するとともに、パルスオキシメーターを全員に配付し、酸素吸入器を確保します。
- 八街市の通学路での交通事故を踏まえ、緊急的な交通安全対策として、ガードレールの設置や信号機のLED化などの安全対策が実施されます。

今議会での仲村ひであきの質問をダイジェストで紹介します。

(詳しくは千葉県議会ホームページで録画をご覧ください)



## 低体重で出生した子どもとその家族への支援を!

### 千葉県版リトルベビーハンドブックの早期実現を!

厚生労働省の統計によると、日本では1年に生まれる赤ちゃんのうち10人に1人が小さく生まれています。中でも1500グラム以下の赤ちゃんを産んだお母さん達は、精神的落ち込みや不安、孤立感を強く感じています。

私の元には、そうしたお母さん達の支えとなるリトルベビーハンドブックを求める切実な声が届いており、県に対して早急に作成するよう求めました。県は手帳の作成についての検討を進めると共に、有用な情報発信にも積極的に取り組むと答弁しました。

早産、病気や障害様々な理由で小さく生まれてきた赤ちゃんと向き合い一緒に乗り越えようとしているご家族の為に、一日も早い実現を求めました。

### リトルベビーハンドブックとは

小さく生まれた赤ちゃん、特に1500グラム以下の赤ちゃんを産んだお母さん達は、出産直後から壮絶な経験をされ、自責の念や将来への不安に苛まれる日々を過ごしています。母子健康手帳を活用する際にも、手帳が満期産を前提に作られていることから、早産等によって小さく生まれた赤ちゃんは成長の記録や確認をすることが難しく、思ったように記録することができない為に、傷つき、孤独を感じてしまっています。こうした声を背景に作成された、小さく生まれた赤ちゃんと家族のための手帳が、リトルベビーハンドブックです。

(写真は静岡県のリトルベビーハンドブックです)



## 就職氷河期世代に対する手厚い就労支援を!

### 就職氷河期世代に対する3年間の集中的な支援の取組みについて質問しました。

県は本年1月に専門相談窓口を設置し、就職に向けた各種講座の開催や、企業とのマッチング、採用後の定着支援などの支援を行ってきました。8月末時点の実績として、32名の就職が決定。熊谷知事からは、求職者の状況や適性を考慮しながら、多様な働き方が可能となる就業先も幅広く開拓するなど、より一層丁寧な就労支援に努めるとの答弁がありました。

私からは、現在1人で対応している企業開拓員の増員と、支援プログラムの更なる周知により、就職氷河期世代に対する就労支援の推進強化を求めました。



## ヤングケアラーへの支援を!

### ①早急な県の実態把握を求める。

ヤングケアラーとは家族の介護やケア、身の回りの世話を担う18歳未満の子供のことです。サポートする大人がいないと、全て子供が担わざるを得ません。国の調査によると中学生17人に1人、高校生24人に1人がヤングケアラーと言われています。ヤングケアラー支援には具体的な状況の把握が必要となる為、国は、都道府県に実態調査を行うよう促しており、県の実態把握に向けた進捗を質問しました。県からは、調査項目や手法など調査の実施に向けた検討を進めているとの答弁がありましたが、いつまでに行うのか明確になっていない事を指摘し、実態調査を早急に進めるよう要望しました。



### ②ヤングケアラー専門の相談窓口設置を!

既にヤングケアラー問題に特化した相談窓口を開設した自治体が出てきており、埼玉県でも、ヤングケアラーの実態調査を終え具体的な支援に向けた取り組みを進めていることから、県の支援の現状と、相談体制整備について質問しました。熊谷知事からは、本年度から児相職員や教職員等への研修を行い、早期にヤングケアラーを発見し、適切に既存の福祉サービスにつながるよう取り組んでおり、今年度実施するヒアリング結果を踏まえ、子どもが相談しやすい体制の更なる充実に向けて検討を進めるとの答弁がありました。私からは早急に専門の相談窓口を設置することを要望しました。



## マスクが着用できない人への理解促進を!

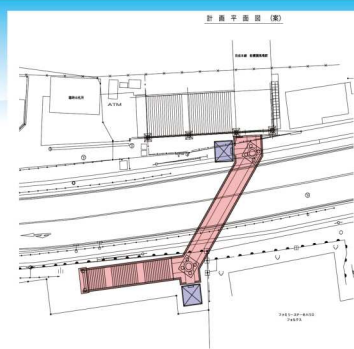
### マスクが着用できない人のマーク普及を求めました。

コロナ禍にあってマスクの着用が日常化する一方で、発達障害や感覚過敏、呼吸器の疾患等の理由でマスクをつけられず、無理解や偏見による悪口や中傷などに悩まれている方がいます。そうした課題解消の為、現在複数の自治体で、マスクがつけられないことを周囲の人に理解してもらうバッジやカードを作成し配布を始めています。千葉県としてもマスクが着用できない人のマークの普及を推進すべきと訴えたところ、県としてマスクを着用できないという意味表示マークの取組みを紹介し、マスクの着用が困難な方への理解を促す事になりました。



## 国道14号船橋競馬場駅前の交差点改良と歩道橋移設について 地元要望を受け取り組んできた長年の主張がいよいよ実現へ!

これまで約10年にわたり、地元課題として何度も県議会でも取り上げ、葛南土木事務所への要望を行う等、粘り強く取り組みを進めてきた案件が実現することになりました。今回は、工事により懸念される渋滞への対策をどのように考えているのか確認をしました。県は、横断歩道橋の移設について、昼間に行った場合は渋滞の悪化が想定されることから、交通量の少ない夜間に行うなどの周辺交通への影響を考慮した施工計画を検討しており、関係者や周辺住民の方々のご理解を得て事業の推進に努めると答弁しました。私からは予定する令和5年からの供用が遅滞なく開始されるよう求めました。



※国道事務所との協議により変更となる場合があります



なかむら ひであき

プロフィール

仲村 秀明

昭和44年7月2日生まれ 千葉県出身

千葉県議会議員(船橋市選出、2期)。公明党千葉県議会議員団所属。健康福祉常任委員、千葉県都市計画審議会委員。船橋市芝山在住。仲村ひであきの議会活動は、ブログ、フェイスブックでも発信しています

県政についてのご意見をお寄せ下さい

[FAX] 047-409-0265  
[メールアドレス] info@nakamura.chiba.jp  
[HP] http://nakamura.chiba.jp